



高口 そのまま屋久島で終戦を迎えたのですが、中学2年の時に南種子に戻りました。農地解放で畑が取られたり荒れ地に

松下 それでご無事だったというのは、まさに奇跡ですね。

高口 戦争末期には屋久島も空襲に遭いました。私自身、学校でウサギの世話を終えて帰宅する途中に、渡り終わった吊り橋が焼夷弾の直撃を受け、命拾いしたこともあり

松下 それはおめでとつございます。

高口 ありがとうございます。故郷の西之は、東は広い田園地帯とロケット基地、西は畑作地帯がひろがり、南には鉄砲伝来の地「門倉崎」があります。私は6人兄弟の2番目として生まれ、種子島で7歳まで過ごした後、父が屋久島の安房にある営林署に勤めることになり、栗穂国民学校（現、安房小学校）に入学しました。

松下 先輩は種子島のご出身でした。高口 はい。南種子町の西之というところで昭和9年に生まれまして、先日78歳になりました。

スポーツ万能の学生時代



なったりしていたため、開墾から始めなくてはならず、だいぶ苦労しました。当時、母が自分の着物を売って食糧を手に入れたことも覚えております。

松下 かなりの成績をお持ちだと伺っておりますが。
高口 高跳びでは175cmの記録を、100m走では11秒4の記録を持っており

松下 実は父も運動が得意でして、国体の前身、明治神宮競技大会の県大会にも出て、100m走では私よりコマ1秒速いタイムを持っていました。父は騎兵隊にもおったことがあり非常に教育熱心でしたので、昔から勉強でもしこかれました。まあ、そのおかげで学業も両親の期待を裏切ることもなく、生徒会長も務めました。

松下 その後、東洋大学に進まれたのですか。
高口 経済的理由で進学出来ず、卒業後は代用教員（正式名は助教諭）（注1）として南種子の荃南小学校に赴任したのですが、教師としての力量不足を痛感しまして、「子供に誇れる教師になろう」と2年で職を辞して昭和30年に東洋大学に進みました。

学業優秀で特別賞を受賞

松下 大学時代についてお聞かせ下さい。
高口 懐かしいですね。大学3年の時に竣工した中央校舎は立派なものです。その横にあった木造校舎や大講堂は今でも脳裏にはつきりと甦ります。

葛飾区金町から通学しておりました。

高校を新設する

松下 そして教師人生が再びスタートするわけですね。
高口 教員採用試験には合格したものの当初日本史の高校教諭の空きがなく、最初は野間中学校（現在は中種子中学校に統合）に配属されました。社会科教師とし

弁当も自分で作って持って行ってましたよ。神田の古書店街で必要な本を安く買って金を浮かせ、喫茶店でコーヒを飲むのが楽しみでした。

学業には真剣に取り組みましたが、終戦後の教科書もままならない時代に英語を習いましたので英文法だけは苦手でした。ただ負けん気だけは強いもので（笑）、履修しなおして、やっと「優」を取ることができました。

松下 先輩はご幼少の頃から学業優秀でいらつやつたから（笑）。

高口 いや、それが二度コテンパンに打ちのめされた経験がありましてね。専攻する日本史を教えてくださったK先生の紹介で東大の続日本紀研究会に参加することになったのですが、私は四年制の高校を出てさらに一年間の代用教員時代がありましたから、同級生達よりも2歳年上だったわけです。その気負いもあって研究会に最初スーツを着て出かけたのですが、若い女学生なんかです。その速さときたら、私なんか今どこを

読んでいますのかさえ分からない。うぬぼれてたんですなあ。その後はスーツを着ていくのをやめました（笑）。

松下 それでも卒業時には、学業優秀で特別賞をいただいたとか。

高口 なんでも鹿児島出身の学生として

の受賞はかなり久しぶりだったということ

で父も喜んでくれました。



① 高校生時代（昭和25年頃？）
② 大学時代（昭和33年頃）
当時、高口氏は奥様と一緒に、学生結婚した夫婦用の下宿に住んでいた。写真は高口夫婦の初子誕生を下宿屋の仲間がお祝いを開いた時のコマ。奥様はこの時は出産で帰省していた。当時下宿では夕食に余った総菜等をみんなで分けあうなど人情味溢れる風情だったと高口氏は述懐していた。
③ 初めての担任（昭和34年頃）
中種子町立野間中学校時代



波瀾万丈

クローズアップ・高口 総 会員

インタビュー／松下健一／文章 井手聡 制作 西元 大作

南の高台には錦江湾公園のH2ロケットの実物大模型を仰ぎ見、眼下には穏やかな谷山の海を見下ろす静かな丘の上に高口さんのご自宅があります。その環境が郷里南種子町の景色にどこか似ていると、庭木まで故郷の風景に似せて自ら剪定をし借景にされた高口さんは今、同郷の奥様とお二人で幸せに暮らしておられます。3人のお子様、10人のお孫さん、さらに4人のひ孫にも恵まれるお二人ですが、長年の教員時代の苦勞、奥様とご自身の大病を乗り越えて来られた経験をお持ちでした。何事にも「誠実」に「真剣」に向き合うことを信条とし、教育一筋に生きてこられた高口さんの人生の歩みをお聞きました。



こうぐち みのる

高口 総

プロフィール

- 昭和 9年 鹿児島県南種子町に生まれる
- 25年 南種子高校農業科(定時制4年制)、入学
- 29年 南種子荃南小学校に助教諭として赴任
- 30年 東洋大学文学部史学科入学(日本史専攻)
- 32年 奥様と学生結婚～翌年、長女、誕生
- 34年 中種子町立野間中学校(現、中種子中学校に統合)に赴任
- 38年 鹿児島県立中種子高校に赴任
その後、県立加世田高校・県立甲南高校等赴任
- 58年 県立財部高校に当時、最年少教頭として赴任
- 61年 県教育委員会に転属。高校振興課主幹。
新設高等学校設立準備委員会にて武岡台高校設立に関わる。
- 62年 鹿児島県立武岡台高校、創立。初任教頭として赴任
- 平成 3年 出水市立出水商業高校に校長として赴任
- 5年 鹿児島市立鹿児島商業高校に校長として赴任
- 9年 南種子町教育長として、赴任
- 15年 同職、退任。44年に渡る教育人生にピリオドをうつ。
- 19年 瑞宝小綬章、叙勲



ひ孫の電志くんピースサイン

- 7 若き日の奥様(昭和30年代)
- 8 教員仲間と一杯(昭和39年頃)
- 9 校友会支部総会で叙勲受章を祝う花束贈呈を受ける。(平成20年9月)
- 10 瑞宝小綬章受章(平成19年)
- 11 大家族で集合写真
兄弟みな互いに助け合う心を大事にし、祝事等、何かあれば必ず集まっている。

【注1】代用教員(正式名は助教諭)

戦前は「師範学校」を卒業して、教諭の資格を得るという制度であった。しかし、当時は進学率が低く、全ての小学校に師範学校卒の先生がゆき渡ったわけではなかった。それを補うために代用教員制度があった。戦中は教員が出征・戦死するなどして甚だ不足していた。それを補うために代用教員制度は戦後暫く続いた。石川啄木、野口英世、小津安二郎と代用教員の経験のある著名人は少なくない。

【注2】後輩の奥村君

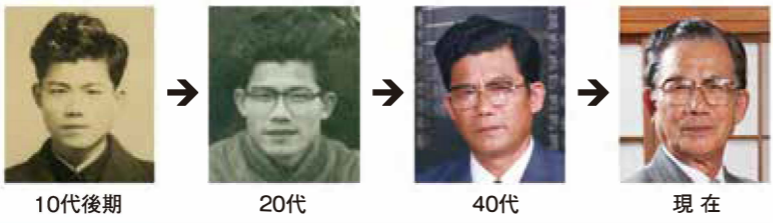
校友 奥村 司氏 昭和35年文学部卒
昭和38年に奥村校友は福平中学校の教員として赴任した。奥村校友もスポーツ成績が優秀であったように、運動競技の県教職員大会に参加し、そこで遭遇したのと思われる。

【注3】瑞宝小綬章 ずいほうしょうじゆしょう

日本の勲章の一つ。「勲章の授与基準」によれば、公共的な職務の複雑度、困難度、責任の程度などを評価し、重要と認められる職務を以てし、顕著な成績をあげた人に対して、瑞宝小綬章以上を授与するとなっている。瑞宝小綬章の対象者は本府省の課長を務めた人、郵便局長や警察署長、税務署長、公立高校長などに多い。

【注4】深頸部膿瘍 しんけいぶのうよう

深頸部膿瘍は、頸部(くび)の深い筋肉の間や結合組織の間に感染による炎症が広がっていく感染症。気道が腫れて閉塞して窒息したり、胸部の方へ炎症が広がって、心臓や肺がある空間の縦隔洞を侵して縦隔炎を合併することもある。病因としては、扁桃炎や扁桃腺のさらに周りに炎症が波及した扁桃周囲膿瘍、進行した虫歯などが主な感染源。



高口青年(20代)



高口 局長と二人、当時の鎌田知事に呼ばれたのですが、知事から「今度新設する高校は進学校だが既存の概念ではいけない。時代の最先端を行くにふさわしい先導的な役割を担う高校を作ってくれ」と言われた時は、どうしていいものか頭の中が真っ白になりました。その後、県下はもちろん、全国のいろいろな高校を視察して回りましたが、創立後は教頭として赴任しましたが、

高口 48歳で赴任しました。ここではいろんな教育現場の改革に取り組みました。ここに3年いた後に県教委へ異動となったのですが、突然、高校振興課主幹として武岡台高校新設準備局に配属になりました。松本 これまでの教育現場改革の実績が評価されたのです。

高口 中学校教諭を経て、28歳の時に県立中種子高校に配属になりました。当時の校長は、大先輩で後に県会議員にもなられた内田先生でした。あの頃は優秀な先生方が揃っておられましたね。私も若輩にもかかわらず生徒指導主任を任せられて、夜も巡回指導をして頑張りました。優秀な生徒も数多く育ちまして、この時に「教師が変われば生徒が変わる。生徒が変われば保護者も変わる」ということを学びました。その後、県立加世田高校、県立甲南高校、県立財部高校に配属されました。

高口 それはまた奇縁ですね(笑)。高口 中学校教諭を経て、28歳の時に県立中種子高校に配属になりました。当時の校長は、大先輩で後に県会議員にもなられた内田先生でした。あの頃は優秀な先生方が揃っておられましたね。私も若輩にもかかわらず生徒指導主任を任せられて、夜も巡回指導をして頑張りました。優秀な生徒も数多く育ちまして、この時に「教師が変われば生徒が変わる。生徒が変われば保護者も変わる」ということを学びました。その後、県立加世田高校、県立甲南高校、県立財部高校に配属されました。

高口 南種子町の教育長を6年務めた後、鹿児島市内に戻ってきてから妻が2度脳梗塞で倒れました。叙勲のお話は19年の3月に妻が2度目の入院をし、退院した四か月後にありました。正直お断りしようかとも思ったのですが、子ども達の強い勧めもあり、お受けすることを決めまして、妻を車椅子に乗せて二人で宮中に参内いたしました。

高口 頂戴したのは「瑞宝小綬章(注3)」だったのですが、皇居の職員の方々が車椅子の妻をいたわってくださいまして、妻は陛下から直々に御言葉まで賜りました。私も陛下が傍を通られた時、言葉にできない厳肅さと感動を覚えまして、日本人であることを再認識しました。その後、家族が集まった時に、孫達が勲章をつけさせてくれと言って、それぞれ写

高口 妻とは代用教員時代に知り合いました。大学2年の時に結婚し、4年生の時に長女が誕生しました。教師というのは転勤がつきものですが、「家族は常に一緒にいるべき。地方には人間形成に必要なものが沢山ある。」という私の信条で、子供3人と妻は必ず転勤先に一緒に連れて行きました。松本 生徒との絆、家族の絆をとっても大事に思われる先輩ならではの考えですね。

高口 妻とは代用教員時代に知り合いました。大学2年の時に結婚し、4年生の時に長女が誕生しました。教師というのは転勤がつきものですが、「家族は常に一緒にいるべき。地方には人間形成に必要なものが沢山ある。」という私の信条で、子供3人と妻は必ず転勤先に一緒に連れて行きました。松本 生徒との絆、家族の絆をとっても大事に思われる先輩ならではの考えですね。

叙勲と夫婦の絆

松本 平成19年の叙勲のお話を聞かせて下さい。

心肺停止からの生還

松本 昨年はご自身も大病を患われたとお聞きしましたが。

高口 平成23年の誕生日の後、最初は風邪気味だと思って通院していたのですが、その1週間後、意識をなくして大病院に運ばれて、一時心肺停止にまでなりました。「深頸部膿瘍(注4)」という病名でしたが、私の意識の無い間に「家族が呼ばれ「手術はするが助かるか保証はできない」と言われたそうです。明け方までかかる手術を受け、20日近くICUに入れられました。松本 今のお元気な様子からは想像もできません。

誠実に、そして真剣に

松本 最後になりましたが、東洋大学と後輩に対してメッセージをお願いします。

高口 「誠実に、そして「真剣」であれと伝えたいです。私は教育者としてこれまで、人や物事に対して「誠実」に「真剣」に向き合うことを一番大事にして生きてきました。それが人が人と人の絆を作り深めるに最も肝要であると思います。松本 ありがとうございます。



- 4 最年少教頭として赴任(昭和58年) 県立財部高校。
- 5 県立武岡台高校時代(昭和62年) 生徒達と校庭の整備に努む。新設校として武岡台高校設立時から関わり、設立後も初代教頭として赴任。生徒達と作り上げた学校として思い出深い。
- 6 鹿児島商業高校時代(平成5年) 教職最後の学校。創立百周年記念校内長距離走大会で競技用ピストルを放つ。校長として、創立百周年記念に野球部を甲子園に行かせたことが、果たせなかった。